

41103

教科書文庫

4
670
33-1949
20000 14549

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

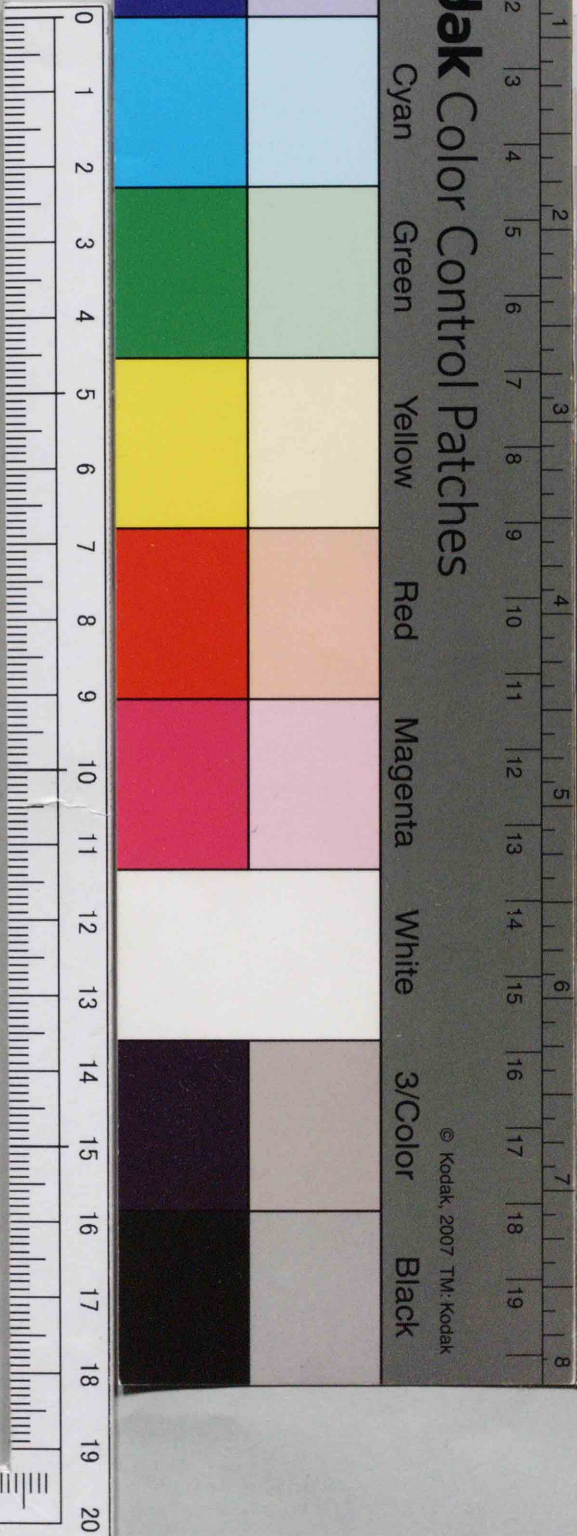


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



3759
Mo14
資料室

高等科商業 上

文部省



資料室

375.9
M014

高等科商業 上

文部省



目録

第一 生産と消費……………一
一 生産……………一
二 農業……………四
三 水産業……………七
四 林業……………九
五 工業……………十二
第二 商業……………十六
一 配給……………十六
二 商業……………十八
三 商業の發展……………二十

第三 商業道……………二十四
一 商人のつとめ……………二十四
二 正直……………二十七
三 法に遵ふ……………三十一
第四 配給の任務……………三十七
第五 配給の統制……………四十二
一 米や魚野菜等の配給……………四十二
二 工業と配給……………四十八
第六 賣買……………五十二
一 配給組合と小賣……………五十二

目録

二 小賣……………五四

三 商品の値段と物價……………五五

四 支拂と受渡……………五九

第七 商業と通信……………六六

一 仕入と注文……………六六

二 電話……………七一

三 電報……………七五

四 手紙……………七八

第八 交通と輸送……………八三

一 鐵道と自動車……………八三

二 船舶と航空輸送……………八六

第九 物資愛護と總動員……………九五

一 物資の愛護……………九五

二 總動員……………百一



第一 生産と消費

一 生産

わが國は今大戦争をしてゐる。そのためには銃後の産業が躍進的發展を遂げなければならぬ。先づ自然の恵みを受けて作物や樹木を育てる農業、林業、海や河の魚介を取つたり養つたりする水産業が必要である。地下に眠つてゐる有用な礦物を掘り出すのは鑛山業である。これに對して工業には、家を建てたり橋や道路を作つたり、織物を織つたり機械を作つたり、その他種々な仕事が含まれてゐるが、皆農業、林業、水産、鑛業で出來た生産物に加工して、その形や性質に變化を與へる働きである。

これらの産業に原料資材を供給し、或はその生産品の配給を受け持つために商業があり、互に助け合つて一國の産業を發展させてゐるのである。

産業には、氣候・地勢・地質などが密接な關係を持つてゐる。わが國の氣候は變化に富み、多種の農林産物を産するが、北西部は大陸からの寒風を受け、南部は季節風の交代に際して颱風が襲來するので、作物の收穫に悪影響を及すこともある。しかし、夏季に雨が多いので稲作に適してゐる。

わが國は山が多くて平地に乏しいが、海岸線は長く良港が多い。南北に連なる島國で、暖流と寒流とが沿岸で交流してゐるから、水産物の種類が豊富である。

資源についていへば、地勢が複雑であるから、礦物で見當らないものは殆どないくらいで、礦物見本國などといはれてゐるし、雨が多く河の流れが急であるから、水力發電に有利である。

わが國の産業が、明治以來八十年の間に飛躍的な發展を遂げたのは、國民が御稜威のもと一致協力して産業報國の誠を致したからである。今や、物質的にその強大を誇る米英に對して必死の戰鬥が續けられてゐるが、銃後に於ける生産力の擴充、國民生活の安定、大陸・南洋の開發經營に、わが産業人の責務はいよゝゝ重大となつて來た。

産業に於いては、科學技術者・經營者・勞務者が、天然資源と一體になつて働くのであつて、大東亞の資源の開發・發明・發見、海外からの輸送・配給などに工夫・努力すれば、わが産業の前途は洋々たるものがあらう。

二 農業

米は、大切な食物として皇祖から賜はつたもので、國民は大昔からこれを主食物としてゐる。稻は、わが風土に適してゐるばかりでなく、祖先の勤勉と工夫によつて次第に改良され、段當りの收穫量に於いても他に類がない。水田は全耕地の約半分であり、麥その他の雜穀の産額を合はせると、農業總額の百分の五十八にも上るのである。しかも、これらの穀物は、大部分食糧に充てられるもので、作附面積の三―四割を家畜飼料の生産に使用してゐる西洋諸國とは、大いに事情を異にしてゐる。

戦時下に於いては、特に食糧の自給自足が必要である。今のところ、内地で生産される食糧だけでは不十分であるから、外地から米や砂糖を多く移入してゐる。戦時下に於いて、かういふものを運ぶために必要な船腹は、他の重要資源を輸送するために使はなければならぬ。内地で食糧を増産して、なるべく外米を買はないうやうにすれば、それだけ兵器や軍需品を作る資材が多く運べるのである。かういふわけで、少くとも日滿だけで食糧を確保する必要がある。それには、米の節約と増産ばかりでなく、甘蔗、馬鈴薯、大豆、麥などの増産が刻下の急務である。今日ほど食糧の大切なことが強く感ぜられたことはない。第一次歐洲大戰の時、ドイツは自國に敵兵を一步も入れなかつたに拘らず、結局負けてしまつたのはなぜであらう。種々他に理由はあるが、食糧の缺乏といふことが大きな原因をなしたのである。

穀物や野菜を作ることのほかに、重要なものは養蠶であつて、か

つては輸出品の大宗であつた生糸が、戦時下の今日に於いては軍服を作るのに必要であり又、落下傘も生糸を原料とするに限るといはれてゐる。養鶏や牧畜は、飼料不足のため十分發達してゐない。

農業の經營はもつばら家族單位であつて、昔ながらの郷土をなしてゐる農村は、簡素剛健な氣風を養ふ源泉となつてゐる。近來工業の發展は著しいが、農業の重要性はこのために少しも減退したわけでない。農業は食糧の確保ばかりでなく、各種の工業に原料を供給する産業であることを忘れてはならない。

元來わが國の農業は、單位耕作面積當りの肥料使用量が多く、肥料の不足は直ぐ生産力に影響する。これまで、多くの肥料を海外に求めてゐたわが國では、堆肥その他の自給肥料の生産と、各種化學肥料の増産が急務とされてゐる。そのほか、農機具、動力用石油、害虫驅除用藥劑などが多くあるのであつて、一層の科學技術的研究と、その活用が要望されてゐるのである。

三 水産業

水産業ほど、わが國情に適するものはない。四面海をめぐらしてゐる上に、近海は魚介、海藻類の生育に適してゐる。國民は勇敢の氣性に富み、漁撈の技術も古くから發達し、漁獲高、従業者數、漁船數に於いて世界一である。

漁業者の活動範圍も沿岸から大洋へと擴大され、北はベーリング海、オホーツク海、南は南極海、東はアルゼンチン沖、西は印度洋を越えてアフリカ近海に至る廣大な漁場を占め、戦前には米國や濠

洲の漁業も、わが漁業者の活躍に依存したものであつた。
 わが國では、昔から家畜の飼養が盛んでなく、随つて獸肉には恵
 まれないが、多種多量の水産物によつて、動物性蛋白質が供給され
 て來たのである。

漁業の發展には、船・網・帆布・發動機・塗料・罐・氷などを作る工業の進
 歩が伴はなければならな
 い。今日の漁船には無線電
 信・冷蔵設備などを持ち、ジ
 ェル機關を使用するものさ
 へある。

内地ばかりでなく、大陸の
 人々にも水産物を供給して



魚類の冷凍

やるのが、わが國漁業者の役目である。

濫獲を避けて魚介の繁殖を助けるためには、漁獲の時季や方法
 を考へたり、或は人工孵化をしたりして、絶えず新しい研究と根氣
 のよい工夫を續けることが必要である。海水での養殖には「かき」
 海苔、あさり、はまぐり、淡水養殖では、鮎、鯉、鰻などが盛んである。

海から取れる鹽は、食料として絶対必要であるばかりでなく、戦
 時下の化學工業には特に、大切に、爆弾も、煙幕も、鹽が無くては作れ
 ない。水産加工品としては、古くから膠・肝油・鯨油・罐詰・冷凍魚・ビタ
 ミン劑などがある。又、鯨皮・鮫皮などは皮革類の不足を補つてゐ
 る。

四 林 業

わが國は、全面積の六割七分が山林原野であつて、海の國日本はまた林野國日本でもある。氣候風土に恵まれて樹木が多いばかりでなく、その種類の多いこと、質のよいことに於いて世界一である。建築用材には、杉・檜があり、木造船の大量生産のためには、何百年來の大木が盛んに供出されてゐる。兵器用材としては、質が硬く、折れず、折れたり缺けたりしないことが大事であるが、この硬さとねばり強さをそなへてゐるのが、「けやき」や「かし」で、外國にはどこにもこんな良材を産するところはない。又、桐は軽く、火に強く、航空機用の器材になくしてはならないものである。更に、私どもがいつも使つてゐる紙や衣服の原料も、木材パルプから出来るのである。

木材に次ぐ林産物は、木炭である。これは日常生活に必要であるばかりでなく、製鐵その他重要な工業にも大切な資源となつてゐる。又、活性炭や觸媒として、自動車用の木炭として、用途はなかなか廣い。炭は山で焼かれるので、その運び出しが大へんであるが、最近では勤勞奉仕作業で積み出してゐるところも多い。

更に、わが國は松の國といはれるほど、到るところ松の木があるが、松脂は、工業上非常に廣く用ひられてゐる。このほか、菌も温暖多雨な氣候に適してゐるため、天然にも人工的にも産額が多い。これらは内地だけのことであるが、南洋の林産も大きなもので、中でもゴムやキナは、世界産額の大部分を占めてゐるし、その他にも開發の期待されてゐるものが多い。

なほ、山林が水源を涵養してくれるので、わが國は水田經營に適し、又、世界有数の水力發電國になつてゐる。そのほか、天然の災害

に對して、森林の役立つてゐることは非常に大きい。

私どもは今戦争を續けるために、たくさんの木を伐つてゐるが、伐つたあとには必ず苗を植ゑておかなければならない。或る老人で、子供の時に植ゑた苗木が、みごとな林となつてゐるのを見て、何ともいへない感激に打たれたといふことである。山林には植林、草刈、枝打など、私どもにできる仕事がたくさんある。

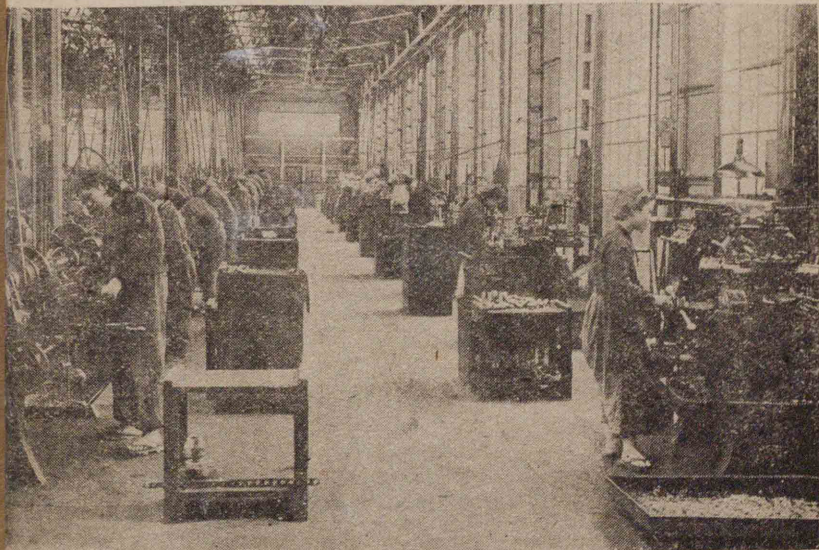
五 工業

天然の資源に加工して、一層役立つものにするのが工業である。家を造るにも、材木をけつたり組み立てたりしなければならぬ。工業には、種々の原料を非常に多く必要とする。従来わが國では、農林産物を原料とする軽工業が盛んであつたが、戦争の苛烈化に伴なつて重工業の發展が著しく、その原料たる地下資源を取り出す鑛山業の擴充が刻下の急務とされてゐる。先づ石炭、鐵鋼、銅、輕金屬の増産は、航空機、兵器、船舶などの生産に缺くべからざるものである。

戦時下に於いて、資源は幾ら在つても足りない有様であるが、何がない、何が足りないといふ問題を解決するのは、科學技術である。或る金屬がなければ、これに似た合金を作る。石油が足りなければ、石炭を液化して作るといふやうな工夫が必要である。石炭や他の鑛物も、進歩した機械の發明によつて増産できるやうになる。又、これまで人が氣づかなかつたところから、新しい資源を發見することもできる。例へば、空氣中の窒素は、火薬や肥料を作る大事な資源になる。このやうに、發明、發見は新しい資源と戦力を生み

育てるのである。

殊に兵器は、文字通り日進月歩である。随つて、新しい装置や機械を考案したり、新しい性能を持つ薬品を發明する獨創力ほど、戦時下の私どもに必要なことはない。例へば日本海々戦の時、哨艦信濃丸から敵艦見ゆ」との警報を發して、百海里をはなれてゐた旗艦三笠に知らせ、あの偉功を立てた木村式無線電信機や、百發百中の訓練と共に、驚くべき破壊力を示した下瀬火薬の發明な



工場

どが、どれだけあの大勝利に役立つたかわからない。大東亞戦争に於いて、優秀な兵器を作ることが、どんなに差し迫つた問題であるかはいふまでもない。

現代の戦争は、おびただしい消耗戦である。航空機・艦船・戦車・弾丸など、幾ら生産しても足りない。一人の兵士が前線で戦ふために必要な物を生産するには、銃後で十五人以上の人が働き続けなければならぬといはれてゐる。非常に多くの物が必要だといふことは、前線の消耗がそれだけけげしいことを示す。しかも、私どもが銃後で使つてゐるものは、みな前線に必要な軍需品であつて、私どもが消費を節約すれば、それだけ前線に少しでも多く軍需品が廻ることになるのである。

第二 商業

一 配給

米や砂糖を始め、味噌・醤油が割當配給になつた。又、街を歩いてみると、燃料配給所とか、家庭用綿縫糸配給所とかいふ看板が出てゐる。配給といふことは、私どもの消費生活に必要ないろ／＼の品物や、農家で必要な肥料や、工場で使ふ原料を行きわたらせることである。

先づ毎日食べてゐる米は、どうして配給されてゐるか。農村で作られた米を都會の人がたべるには、田舎から運んで來ることが必要である。その上、米のとれるのは秋であるのに、私どもは毎日

米をたべるのであるから、秋

米の貯藏

に收穫した米を、一年中不足しないやうに貯へておく工夫もしなければならぬ。このやうに生産と消費とは、人と場所と時期がそれぞれにちがつてゐる。單に米ばかりでなく、あらゆる品物がさうである。



そこで、生産された品物を消費者に行きわたらせるためには、どうしても、これらの人、場所、時間の間にある隔たりを取り除くことが必要である。さういふ大切な仕事は配給である。

物資を生産者から消費者へ配給する仕事を、商業といふ。普通に商業といふと、魚屋とか八百屋といふやうに、品物の賣り買ひをすることだけをいふやうに見えるが、そんなせまいものではなく、物資の配給に關係する仕事皆さうである。例へば、運送したり保管したりする仕事も、商業である。

二 商業

わが國では、農は國の基といつて、國民は神代から農業を營んでゐたが、初めはおもに自分たちの家族がたべるだけの米を作り、或は山の幸、海の幸といはれたやうに、海山にある天産物を取つて來て生活してゐた。このやうに、大昔では、自分たちのいるものは皆自分たちで作つたり採つたりしてゐたのである。言ひかへると、

物の生産者と消費者とが、同じ人であつたわけで、生産者から消費者へ物を配給する必要はなかつたのである。

次第に人口が増加して、部落や村が出来るやうになると、お互に自分の作つた品物を他人の作つた品物と交換し、自分では作ることのできない品物や、自分の村にはない品物を手に入れるやうになつて來た。このやうな物と物との交換は、次第に規則正しく行なはれるやうになり、のちにはいつも同じ場所で交換が行なはれるやうになつた。この場所を市いちといつた。

やがて、物々交換は、いゝの點で不便なことがわかつて來た。自分が交換したいと思つても、相手がそれを承知しなかつたり、分量の點で意見が合はなかつたりする。例へば、魚を半分にするのはかまはないが、それが履物の値打の半分しかないといふのでは、

片方の履物をもらつても仕方がなく、又、一方が米を持ち、他方が反物を持つてゐる時、それを小さく切つて渡されたのでは、着物にもならない。さういふわけで、物と物とを交換する仲立ちになつてくれるものが必要になつて來た。即ち、誰でも喜んで受取る物を、交換の仲立ちとして使ふことが考へられた。これが貨幣であるが、その初めは米や布が用ひられたこともある。

貨幣が用ひられるやうになると、交換は非常になめらかに屢行なはれるやうになり、交換する人の範圍もだん／＼廣くなつた。そのために人々は、もう自分にいる品物を全部生産する必要がなくなり、自分で出来る品物だけを生産して、これと他の人々が生産した品物とを、交換すればよいやうになつた。さういふわけで、専門の職業が分れて來たのである。

かうして分業がいよ／＼こまかくなり、交換の範圍が益々廣くなると、生産者が自分の作つた物の交換を自分でやることは、いろいろの點で不便になつて來る。その結果、各地の生産者からその生産物を買ひ集め、これを消費者に賣り渡すことを専門にする人が出來た。かういふ時代になつて、始めて物資の配給が専門に行なはれるやうになつたわけである。

物々交換の時代や、貨幣が用ひられ始めた頃には、物資は生産者から直接に消費者へ渡されてゐたのであるが、やがて生産と消費とが分れるにしたがつて、物資を生産者から集めて、これを消費者に行きわたらせることを仕事にする商人が現れたのである。

三 商業の發展

ところで、そののち生産と消費とが益分離して來ると、一人の商人が品物を集めることと、行きわたらせることの兩方を行なふことは、むづかしくなる。やがて、集めることだけを専門にする集荷商、即ち問屋と、行きわたらせることを専門とする分散商、即ち小賣商とが分れ、また集荷商から分散商に物資の取次をする中間商も現れた。

更に、物資の配給が複雑になると、配給に従事する商人が、たゞ物資を生産者から買い取つて消費者に賣り渡すだけでなく、このほかにも、いろ／＼の仕事をしなければならなくなつて來た。炭のやうに生産地と消費地とがはなれると、物資の運送をすることが必要になり、米のやうに生産と消費の時期が一致しない物資は、保管しておく必要も起つて來る。物資を運送したり保管する間に

は、いろ／＼な災難が起つて損害を受けることもあるから、その損害を補ふ必要があり、或は取引が大きくなつて來ると、多額の資金が入用になつて自分一人では用意することができないから、他から融通を受ける必要も起つて來る。さういふわけで、買ひ集め、賣り渡しのほかにも、運送・倉庫・保険・銀行などが、商業の中にはいつて來るのである。

このやうに商業は、社會生活上必要な職業となつたのであるが、そこには利潤追求の弊害があり、中間の商人がいち／＼利益を擧げようとするために、生産品が消費者の手に入るまでには、生産價格と非常な隔たりが出來てしまふ。殊に商品の供給が需要を充し得ない場合には、價格が騰貴して消費生活を非常に苦しくするのである。

第三 商業道

一 商人のつとめ

昔から商賣は奉公だといふことが、いはれてゐた。商家の家訓とか、仲間の規約などには、必ず「法度は堅く守るべし」と書いてあつた。この誓ひにそむいた者は「仲間はずれ」のきびしい制裁を受けたのである。又、正直に商ひすることがやかましく教へられてゐた。結果から見ても、正直に營業した家は繁榮してをり、不正な商人はいつの間にか衰亡してゐる。

信用を重んじ、正直で義理堅いといふことが、昔からりつばな商人の特色であつた。口約束でも一旦引き受けた以上は、必ずこれを實行するのが商業道であり、どんな不利益なことが生じても違約などはせず、義のためには算盤を離れ、一身を捧げるといふ氣概があつた。

赤穂義士が主の仇を討つことができたのも、その裏に、これを助けた義侠の士がたくさんあつたからである。中でも天野屋利兵衛は、大石良雄に槍や刀などの調達を頼まれると、わが身の利害をかへりみず、これを引き受けた。やがて、このことが奉行に知れ、取調べをうけたが、かねて覺悟の利兵衛は、水火をもいとはない氣概を見せた。忠臣藏の十段目に、天野屋利兵衛は男でござる、といふのは、この時のこととされてゐる。赤穂義士が本懐をとげるまで、利兵衛はつひに白状しなかつたのであつた。

商人が自分の利益のためばかりに働くのでは、お國のためには

ならないわけである。世のため、人のため、お國のために働いてゐるのだといふ氣持で、精根を傾けて専心その仕事に當れば、不正直なことなどは考へられないはずである。商業に従事するのも、それが國家のためであり、正しいことであると信じてやるのでなければならぬ。このやうに、商人が自分の使命を自覺すれば、商業はいよいよ國家に必要な仕事となり、世の尊敬を受けることになる。

商ひの道は、要するに誠である。誠を以つて當るところに、道は開けて行く。誠は、たやすく相手に通じない場合もあるが、うまざたゆまずやり續ければ、やがては必ず人を動かすものである。りつばな商人となるのも、忠勇な將兵となるのも、道は同じであり、勇氣を要するのである。

今日一日の事

- 一、 今日一日三つ、君父師の御恩をわすれず不足をいふまじき事。
 - 一、 今日一日、決して腹を立つまじき事。
 - 一、 今日一日、虚言をいはず、無理な願ひごとをすまじき事。
 - 一、 今日一日、人のあしきをいはず、わがよきをいふまじき事。
 - 一、 今日一日の存命を喜び、家業を大切につとむべき事。
- 右はただ今日一日の愼みにて候。

明日ありと油斷をなさず、忠孝も今日一日とはげみつとめよ。

(安田善次郎一日の事)

二 正直

安田善次郎翁が、始めて海苔屋を開いた頃のことである。三箇條の誓ひを定めた。

第一に、虚言をついてはならぬ。

第二に、商賣は眞心を以つて客に接しなくてはならぬ。

第三に、買ふ人には一番良いものを賣つてやらねばならぬ。

この誓ひを守つて、一生けんめいに客の便利をはかる覺悟をきめた。實際客のためとあれば、身を忘れて働いたのである。翁の五十年間の主義方針は、常に買ふ人の心となつて商賣を營むといふことにあつた。

信義を重んずることが、特に商人に取つて大事なことはいふまでもない。信用がなくては、商賣は永續きしない。昔から、不正直な者で榮えたためしはない。

特に戦時下に於ける銃後の生活を明かるくするには、物資の正しい配給が必要である。目方はきちんと正しくし、値段は公定以下、正札は見やすいやうにすることである。不正をする一人の商人があるために、みんなが不正を働いてゐるやうに見られることがある。悪い店は、お互に心を合はせて無くするやうにしようではないか。

これくらゐは品質を落しても、高く賣つても、氣がつくまい。少しは目方をごまかしても、わかるまいと考へる者がある。しかし、それが客には意外にわかるものである。客の間ではいつのまにか、あの店のものはよくない、あの店にはごまかしがあるといはれるやうになり、商賣も衰へて來るのはいふまでもない。

かつて東京の神田に、ひどい洋服屋があつた。その主人は、かう言つてゐた——「洋服の良い悪いは素人にわかるものでない。だから、宣傳や商略にうんと金をかけて客をつるに限る。神田と

いふところは、年に何千といふ學生がはいり込んだり、出たりする。この入學し卒業する學生に一着づつ賣れば、それで商賣はできる。品質や仕立てなんか、どうだつてよい。同じ客に二度買つてもらふ必要はないのだから。」——ところで、悪事千里といふ諺の通り、恐しいもので、數年たつとその店は閉店し、人手に渡つてしまつた。うそや、かけ引きや、ごまかしでは、一時の利益を收めるだけで、それは全く迷ひの雲である。迷ひの雲を拂ひのければ、たとゝ正直と誠が光を發するばかりである。又、顔見知りや、高く買ふ人には、多く賣つたり、良いものを分けたり、或は商人同士で物を交換したりするのは、配給の不公平を來たし、銃後のなごやかな氣分を亂すものになるから、きびしく戒めなければならぬ。

或る町での話であるが、滿洲からの留學生が買物に行つたところ、持つてゐた金が足りなかつたため、又來ます、と言つて立ち去らうとした。店の女主人が、あなたは留學生でせう。代金はお序の時でよろしうございますから、お持ち下さい。」とあつさり言つたので、その留學生は、大變喜んで品物を受け取り、翌日代金を持つて行つたといふ。まことに平凡なことのやうではあるが、お互に正直であればこそ見られる風景であつて、國民相互間の商賣はもとより、大東亞地域の人々の間にも、これからは交易が盛んに行なはれるのであるから、正直といふことを根本にして、みんな大切な商品をお互に活かして使ふことに心掛けなければならぬ。

三 法に遵ふ

法に遵ふ精神は、法をおそれるのではなく、進んで國家の法律が

よく行なはれるやうにお手傳ひする心がけである。自分の利害だけを考へてゐる人は、とかく利益であれば法に遵ふが、損をしてまで法を守れるかといふやうな、まちがつた氣持を起しやうい。

一體、法に遵ふといふことは、どういふことであらうか。國法に遵ふことは、大御心にしたがひ、皇運を扶翼し奉る道である。特に今日では、とぼしい物を最も有効に配給するために、こまかな法規上の統制が加へられることになつた。この經濟統制法規にしたがふ精神が、國民、殊に商人の間に行きわたつてゐるかどうかが、戰爭に勝つかどうかのわかれ目である。總力戰のためには、前線皇軍將兵の善謀力闘と、銃後の經濟生活の完遂が、りつぱに行なはれなければならぬのである。自分さへよければといふやうな利己的な考へから、不正申告や情實賣り、やみ取引、賣惜み、買溜めなどを

すれば、物は益不足して來る。自分一人ぐらゐといふゆるんだ心は、全體を弛緩させ、結局みんなが困るやうになるのである。配給は、銃後に於ける國民生活の鍵であるから、國策の遂行を害するやうな不正行爲は、反國家的犯罪ともいふべきであつて、各人は十分誠めなければならぬ。私どもはお互に手を取り合つて、一人の違反者も出さないやうにすることはもちろん、少しでも國策の遂行に協力することに努めようではないか。

東京からほど遠からぬ町の或る酒屋の話である。「戰爭に勝つには銃後の配給が肝心だ。法を犯すやうなことがあつてはそれこそ申しわけがない。」と言つて、五人の仲間を誘ひ合はせて五人組を作つた。さうしても、もし五人のうち一人でも經濟統制の法規を犯して罰せられるやうなことがあつたら、氏神様におわびのお參

りを續けて、共同に罪を反省し、商賣を休んで謹慎しようとして約束した。ところで、その後不幸にして一人が軽い違反で罰せられた。そこで約束通り、五人は五日間商賣を休んで齋戒沐浴し、氏神にお参りを續けた。五日目に、罪を犯した人が自分一人のため四人に迷惑を掛けてすまないとあやまつた。これを聞いた四人は、何もあなたにあやまつてもらふ筋合ひではない。今度のこととは自分たち五人の罪であつて、一人の罪ではないのだ。それがわからないうやうでは、自分たちの誠が足りないのだ。と言つて、又五日間謹慎し、神様におわびのお参りをしたといふことである。この五人組の真心が、だんくんと町全體に感化を及して行つて、賣る人も、買ふ人も、一切不正をやらないやうになつた。そのため、出荷團體も、この町の店と取引してゐれば罪に問はれる心配はないと言つて、喜んで豊富に物を送り出してくれるし、商賣も繁昌して行つたといふことである。

又、或る町の薪炭配給組合では、どんなことがあつても闇や情實賣りをせず、正しい配給をするといふので、近所の評判である。出荷する方で、人手が足りないから規定より少し高く買つてくれと申し込んで來ると、さうすれば結局消費者から公定價格以上のお金をいたゞかなければならないことになるからと言つて斷乎とした態度を示し、人手が足りないために、高くなるといふならば、自分たちで取りに行かうと、みんな勤勞奉仕のつもりで山へ出かけて薪炭をおろしに行つた。もとくこの組合は、理事長が正しい、しつかりした人で、組合員も安心して仕事に勵んでゐるから、他の組合からは違反者が出て、この組合からは一人も出ないばかり

か、他の組合では家庭まで届けないやうになつてゐるところも多いが、この組合では、配給所が應召や徴用のために人がへつても、毎日朝の六時から晩の八時頃まで眞黒になつて、自轉車に山のやうに積んで届けてまはる。この勞苦と親切には、町の人もありがたがり、縣廳でもこの組合の正直なことを認めて來た。

第四 配給の任務

私どもの生活に必要な物資は、農業を始め、林業・水産業・鑛業・工業などによつて生産される。これらの生産された物資を消費者に配給するのが、商業の働きである。もし商業がなかつたならば、生産された物資も消費者の手に渡らず、工業は原料の供給がとまつて生産ができなくなる。實は、農業・工業・商業が互に助け合ふことによつて、生産・配給・消費が行なはれるのである。戦争になつて物を適切圓滑に配給する役目は、今までよりも一層大事なこととなつて來た。今日ほど、配給といふことが、世間の人から大切だと思はれたことがあつたらうか。商業に従事する者も、配給といふこ

とがどんなに重要な役目であるかを、今日ほどはつきり自覺したことはなかつたであらう。

生産が尊ばれるのは、それが國家の御用に立ち、戦争に必要なだからであつて、戦時下に於いては、何よりも先づ武器・彈藥を始め、軍需品の供給がゆたかに行なはれると共に、生活必需品の供給を確保することが肝要である。それには、生産力の擴充を行なはなければならぬのであつて、そのためには、生産に必要な資材が順調に配給されることが、要求されるのは當然である。又、國民生活の確保に就いて、最少限度の物資をどう配給するかが問題である。例へば、炭がどんなにたくさん山奥に積まれてあつても、そのままでは何の役にも立たない。つまり配給の働きがなければ、生産だけではどうにもならないのである。配給は、生産業に必要なものを

提供したり、生産した物を、軍用に、或は世のため人のためになるやうに、行きわたらせる仕事である。今日の配給は、商人の手によつて行なはれるほかに、國家の配給機關が出來てゐるが、一般國民の生活品は、隣り組などでやる配給の外は、大體商人によつて營まれるのであつて、品物を揃へて置いていつでも必要な時に間に合はせる職業が即ち商業である。もし商人が全然あなかつたとしたら、誰もかれも、自分で農家に米を買ひに行つたり、海邊まで買ひに出かけるか、釣でもしなければ魚がたべられなくなる。それでは、毎日の生活にも差支へるやうになり、安心して勉強したり自分の仕事をしてゐるわけに行かなくなる。

しかし、商人はたゞ物を賣買して、その間の利益を取ればそれでよいといつたものであらうか。商人は決して機械的な配給をす

る者ではなく、時には物の買ひ方の相談相手、使ひ方の指導者にもなるのである。或る洋品屋は、自分の店で賣るシャツの着方、洗濯の仕方、保存方法などを、買ふお客に教へた。そのために、今まで二箇月しかもたなかつたものが、三箇月も四箇月も使へるやうになつた。これは二箇月で切れて使へなくなるシャツの命を、更に二箇月よけいに活かしたことになる。それだけの物資が、一層永く役に立つやうになつたのである。一人々々がかういふ心持で、あれば、全国的にいつて、物資の消費量に大變な相異が出来て来るわけであるから、國民は、誰もむだをしないやうに、氣をつけなければならぬ。

私どもは日本といふ大きな家の中で、いつしよに生活してゐる家族のやうなものである。お互に親切に助け合ふのが當然であり、賣る人も買ふ人も、ありがたう。といつて感謝しあへば、どんなに氣持よく、明かるい日々々が暮せることであらう。品不足は、どんな商賣にもある。しかし、さうした時に、どうすれば最も親切に配給することが出来るであらうか。戦時下の配給は、今までのやり方そのまゝでは成り立たなくなつて來た。できるだけ早く、安く行きわたるやうにするには、どうすればよいか。今や、わが國に不足する物資を海外から持つて來る代りに、國內の生産品を海外に供給して、大東亞共榮圈を建設するといふ大きな配給事業、交易事業も、日々に發展して行つてゐる。

昭憲皇太后御歌

ひのものとのかとまさむとあき人の

きそふ心ぞたからなりける

第五 配給の統制

一 米や魚、野菜等の配給
 農家で作った米は、これを集めて都市に持つて来る必要がある。又、その取り入れは秋だけであるのに、たべるのは一年中であるから、長く貯へるために倉庫が必要になる。

農家の作った米を集めるためには、これまで仲買人や産地問屋があり、集められた米は消費地の問屋へ送られ、更に小賣商を経て消費者に供給されてゐたのである。ところが、戦争の長期化に伴ひ、食糧がいよゝゝ重要な問題になつて来て、米だけでなく麥その他の主要食糧も、國家が管理するやうになつた。即ち今までのやうに、農家も米屋も自由に賣り買ひすることをやめて、できた米は政府で買ひあげるやり方になつた。農家も、取れた米は自分の

部配給所日報

人形町西部主任

部		本日入金高				翌日繰越未配達米		翌日繰越未收代金	
合計数量	金額	現金	金券	掛入金	合計金額	数量	金額	数量	金額
44,100.00	246.00	246.00			246.00	45,201.90			
44,100.00	246.00	246.00			246.00	45,201.90			

A3長2×100×2.000 (17.12) 東東147

昭和拾八年 九月拾四日午前〇時現在

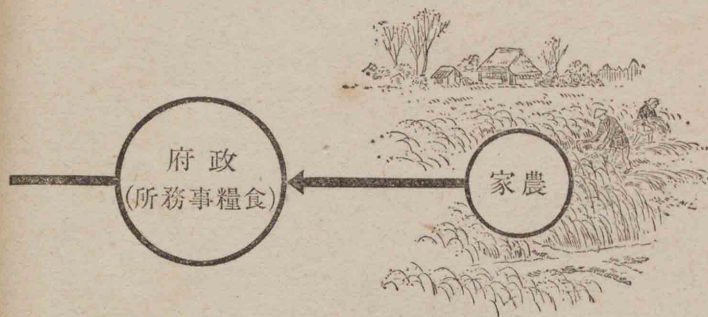
人形町西

No.	内容	前日繰越米配達米		本日受入精米		本日配			
		数量	金額	数量	金額	家庭用	業務用	外食券	應急米
	平常米	47.9	48,202.50	41.00	44.00				10,060
	應急米								
	日計	47.9	48,202.50	41.00	44.00				10,060
	米穀								
	米穀ノ異計								

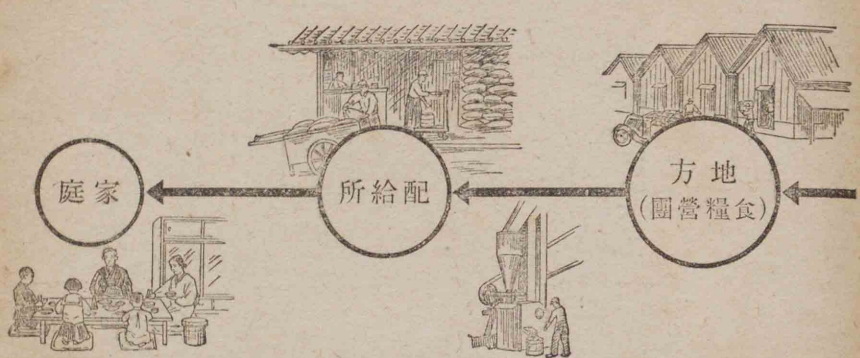
○「註」特殊ナル配給ニ就テハ本日報ヲ利用シ、別報トナスコト

家で食べるもののほか、全部政府にきまつた値段で賣らなければ

米の配給系統
ならない。これを供出米といふ。

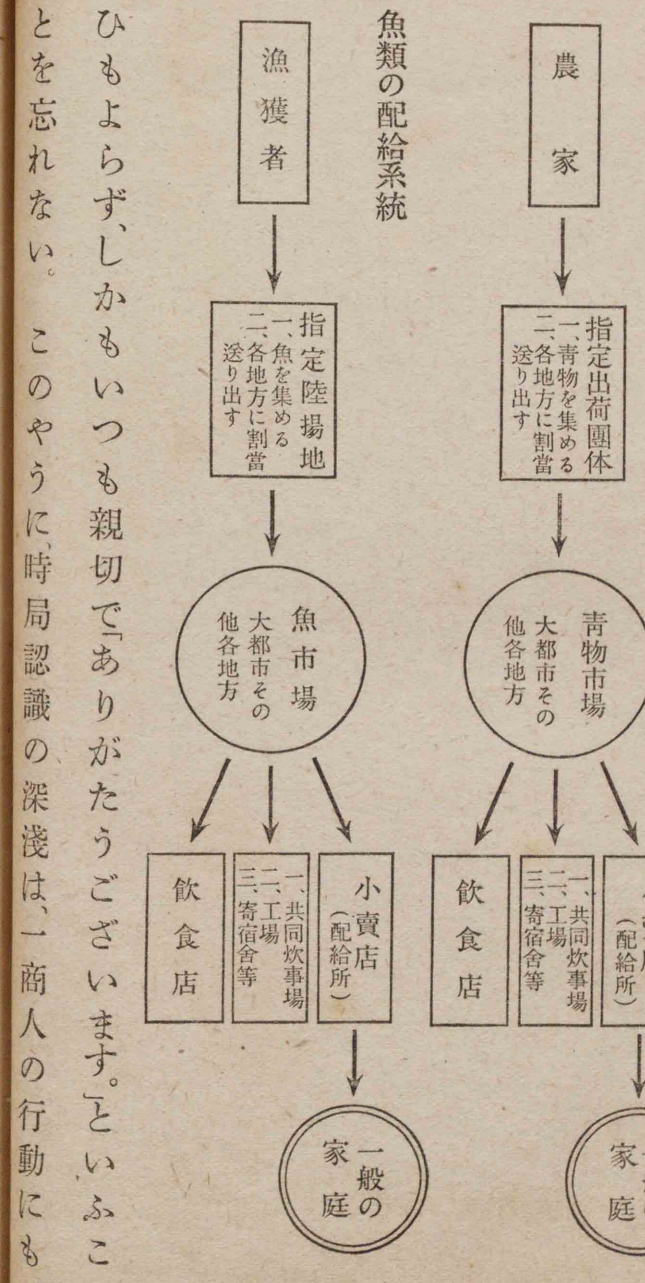


政府は、食糧營團といふものを設けて、米のいり用な分量を、それと地方ごとに割當てて、賣らせたり買はせたりしてゐる。これまで農家から米を買つてゐた仲買人や、白米にしてそれをたべる人に賣つてゐた米屋の一部は、食糧營團にはいつて、米の配給の仕事をする事になつた。私ども一人一日にどれだけの分量があるかといふことが、年齢や仕事によつてきめられ、配給通帳によつて一定の分量だけを、きまつた配給所から買ふことになつた。



魚や、野菜や、果物のやうな、いはゆる生鮮食料品は、産地の生産者によつて出荷團體が出来てゐて、集められた商品は都市の指定された卸賣市場に送られる。そこから小賣商が作つてゐる組合に賣り渡され、それから箇々の消費者に配給されるのである。生物は腐りやすく、長い間貯へることができないから、できるだけ早く配給する必要がある。親切で評判の八百屋があつた。その店では、南瓜でも手にはいると、面倒がらずに一つを四つにも五つにも切つて、なるべく多勢の客に行きわたるやうにつとめた。又、日によ

つてはトマト一つづつ配給してくれることもあるし、少し品物が古くなれば、公定価格より安く賣つてくれる。情實賣りなどは思



仕入配給票 世田谷支部

No. 5 18年 9月 1日 屋敷 魚政 氏名 鈴木政一

登録品	数量	仕入単價	金額	特殊品	数量	仕入単價	金額
スルメ	7500	180	1350	真鯛	800	1500	1200
イワシ	5400	81	437	青柳	1000	600	600
タコ	4700	420	1974				
梶木	2800	750	2100				
(合計数量)		22貫	2004	(合計金額)		76圓	61錢

配給報告欄

本日の配給状況は

隣組 自 15 番 計 12組 148世帯 682人
至 26 番

上記ノ通り配給致シマシタカラ此段御報告申上ゲマス

販賣者 鈴木政一

東京魚商業組合

現れるのである。

中央卸賣市場の標語

- 一 食料は神の賜物なり。われらは常に報恩の念を以つて配給せん。
- 一 食料は戦の糧なり。われらは常に愛護の念を以つて配給せん。
- 一 食料は勤勞の結晶なり。われらは常に感謝の念を以つて配給せん。

二 工業と配給

工場で使はれる原料の分量は非常に大きいし、一年を通じて絶えず原料がなくてはならないから、いつでも必要な分量を供給するやうにすることが大切である。

又、工場の中には、日常生活に必要な物を作つてゐる所もあるが、さういふ物の消費される範囲は非常に廣いから、少しづつ廣く賣りさばく仕事があるわけである。製品は普通には製造業者から組合・小賣商を経て消費者に配給される。しかし、大きな製造業者の中には、特約の販賣代理店や、直屬の販賣會社によつて、小賣商へ配給するものも少くない。

各種の重要産業、殊に戦時に於ける軍需産業の生産を擴充するには、民需用の不急不要品の生産を制限したり禁止したりして、生産資材や原料などがさういふ方面に流れることを防ぐ必要がある。かくして、軍需方面に資材や原料が集り、民用品の生産が減らされることになれば、減らされた民用品を、公平に配給することが特に必要になつて来るから、配給統制が行なはれなくてはならないのである。

先づ銑鐵・鑄物・銅製品の製造制限を始め、各種の金屬・皮革・ゴムな

どを使ふことが制限された。そこで、金屬製の家庭用品や革で作つてゐた靴、かばんなどの代りに、いろいろな代用品が考案されてゐるのである。又、綿製品も生産制限があるが、これは原料の棉花が全部輸入品だからである。

更にむだな消費をおさへるために、高級な織物や、貴金屬製品、その他の贅澤品を作ることが禁止されてゐる。さうして、多くの重要物資については、統制會社、配給會社といふやうな全國的な配給機關のもとに、地方的な配給機關をも作り、更に小賣業者が作る商業組合を通じて、切符制度、その他による割當配給を行なつてゐる。この切符制といはれる方法は、消費者その他の需要者が實際にどのくらい必要かといふことを調べて、切符と引換に物品を賣るのである。工業に對する原料は、多くこの方法で配給され、ガソリンを始め、砂糖、マッチその他の生活必需品に對しても、切符制度が採用されてゐることは誰も知つてゐるところである。衣料品は、米その他の食料品のやうに、一人當り何がどれだけといふ具合に、品物ごとに一定量を割當てることは適當でないから、點數による綜合切符制が採用され、又、米、木炭などには、通帳が使はれる。

第六 賣 買

一 配給組合と小賣

物資の配給は、賣買といふ方法で行なはれる。即ち、買取・賣渡の手續を繰返して、生産者から消費者へ配給されるのである。さうして、賣買をする人は、配給を受け持つて物資の圓滑な受授につとめた報酬として、買取値段と賣渡値段との間に、多少の利益が認められる。現在卸商の仕事は、多く配給の組合がやつてゐるが、これまで卸商は、消費者の要求する各種の物資を小賣商のために買ひ集めてゐた。消費者の求める品物は普通少量であるし、時期も一定してゐないから、小賣商が、その度ごとに、各方面の生産者から直

接仕入れることは手数がかゝるばかりでなく、それには多くの費用もいる。随つて、これを専門にする卸商を通じて仕入れたのである。もし、小賣商が多くの物資を一度に仕入れるとすれば、これを保管するため多くの費用がいり、又、保管してゐる間に品物が悪くなつたりする恐れがある。

小賣商の配給組合は、商人だけを相手とするもので、まとまつた取引が多く、商品の荷造とか荷ほどき、保管などに便利な設備が必要である。商品の保管には、火災や、鼠害や、盗難を防ぐこと、變質したり色のさめやすいものは、通風・採光・温度などに留意すべきである。又、火災のために思はぬ損害を被ることもあるから、なるべく火災保険をつけるがよい。

二 小 賣

小賣は行商・露店商のやうなものもあるが、大抵は店を構へた商店である。農村や町はづれには、萬屋まんやも残つてゐるが、藥屋とか酒屋とか一種又は數種の商品だけを取扱ふのが普通である。米・炭のやうに割當配給が行なはれてゐる商品は、配給所から消費者への配給が行なはれてゐるが、この配給所も小賣商店が形を變へたものである。又、日用品市場は、同じ建物の中に多くの商店が集つて、食料その他の日用品を賣る小賣市場である。更に百貨店も、小賣といふ點では同じである。

小賣店がなかつたとしたら、どうであらうか。入用な品物は、いち／＼製造元や農家へ行つて、分けてもらはなければならぬ。それには遠い所まで出かけて行く必要があり、忙しい時には、買ひに出かけられないこともある。又、さういふやり方は、いつでも入用の時にすぐ間に合はすことができないから、さし當り入用でないものも、餘分を買つておかなければならぬ。かう考へて來ると、小賣店が私どもの生活にとつてなくてはならないものであることが、はつきりわかる。小賣店があるからこそ、いつでも必要な品物を入用なだけ、簡単に買ふことができるのである。小賣業者としては、どんなに少い分量でも親切に喜んで賣ることがその役目であらう。都市が大きくなればなるほど、消費者と生産者との距離が遠くなり、小賣商が多くなり、又、發達もするのである。店は先づ客に對して氣持のよい感じを與へ、信用を得るやうに考へるべきである。又、陳列や廣告も、簡素のうちにも明かさとしさを出すやうに考へなければならぬ。昔は、商品をしまひこ

んで店頭には出さなかつたが、近頃は、陳列棚や陳列臺を適當な位置において、客の出入や觀覽を自由にし、商品の選擇がしやすいやうに分類しておくことが多い。店内の配光・照明に注意して商品を引き立たせること、又、日光の直射やほこりて品物が悪くならないうやうに注意すべきである。もつとも、徒に店飾りばかりをして、虚飾に陥るやうなことは慎しむべきである。

三 商品の値段と物價

商品の取引値段は、これまで賣主と買主との間で、市場の相場を標準として自由に定められたものである。何でも買ひたいといふ人が多く、お金をみながたくさん使ふと、お金が世間に多くなるから、値段が高くて賣れるやうになる。特に物資が不足してゐ

る時には、どんな物の値段もどん／＼高くなる傾きがある。一つの物の値段が高くなると、ほかの物の値段もそれがひゞいて高くなる。このやうに、多くの品物の値段が高くなつたり安くなつたりすることを、物價があがるとか、下るとかいふ。戦時下に於いては、物價の變動、殊にあがるのを防ぐことが絶対に必要である。

戦時には、軍需方面にばくだいな物資を必要とするから、一般民需はできるだけ節約しなければならぬ。即ち、國民生活に使はれる品物が非常に少くなるから、値段はおのづから高くなる傾向があり、随つてできるだけ買物はしないやうにすべきである。お金をもつてゐるから、いくらでも買ふのだといふやうなやり方は、多くの人たちをどんなに苦しめるか知れない。

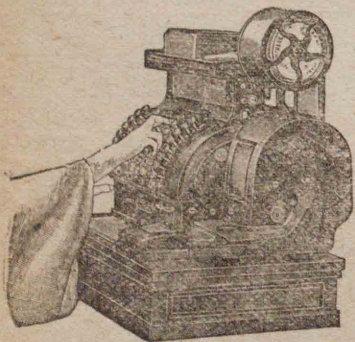
物價があがると、政府が計畫してゐるい／＼の重要な事業の

遂行がむづかしくなつて来る。政府が豫算を立てる場合には、先づ政府のなすべき事業を豫定し、それらの事業を営むためには、どれだけの金額が必要であるかを見積る。その見積を立てるに就いては、その時の物價がもとになつてゐるのである。そこで豫算を組んだあとで、物價があがつて来ると、初めに立てた豫算では豫定の仕事ができないことになる。

例へば航空機、艦船、戦車、弾丸をどれだけ、工作機械をどれだけと計畫を立ててゐても、その目的を達することができなくなる。そこで、ぜいたくな暮しや、金のむだ使ひをすることはもちろん、かりそめにも物價を高くするやうなことは、同胞の生活を苦ししくし、國家の財政を困難ならしめて、聖戰の完遂をさまたげることになるから、大いに慎まなければならぬ。

四 支拂と受渡

現在では、多くの商品の値段は、それを自由にきめることは許されない。即ち、商品は賣る値段が公定されてゐるから、卸商も、小賣商も、公定價格より高く賣ることはできない。又、物資の消費節約が強調され、殊に生活必需品の中には切符制になつたものがあり、ぜいたくな品物に就いては、販賣禁止になつたものも、少くない。更に物資の不足してゐる時であるから、豊富に商品を誂へることもむづかしく、商品の品質や形なども定められてゐるものが多いから、今までのやうな廣告や宣傳を盛んにやる必要は殆どなくなつた。



金銭登録器

のである。

商品の賣買には、代金の支拂が伴なつてゐる。代金支拂の時期にはいろいろあるが、現金拂が普通で、商品と引換に現金で支拂ふのである。これに對して後拂といふのは、商品の受渡をしたのち、或る時期を経て代金を支拂ふもので、掛賣がこれである。普通月末(晦日)か、半期即ち盆(六月末)及び暮十二月末、大晦

日に支拂はれる。又、分割拂は、代金を何回かに分けて支拂ふもので、毎月一回づつ拂ふ月賦拂などがこれである。

△年6月5日		
第138號		
要摘	高金	名姓
毛筆千本代金	一金壹百五拾圓也	静岡市 本田文房具店

第一三八號	受 取 書
一金壹百五拾圓也	但シ昭和△年五月貳拾五日請求書 第一五七號 毛筆千本代金
右金額正ニ受取候也	昭和△年六月五日
静岡市 本田文房具店殿	東京都日本橋區横山町一丁目十二番地 田村豊吉商店 電話 浪花 (67) 二二二五

帳 取 判 錢 金

日 五 月 十	日 五 十 二 月 九	日 五 十 月 九
右金額正ニ領收候也	右金額正ニ領收候也	右金額正ニ領收候也
一金百參拾五圓也	一金九拾圓貳拾錢也	一金貳百五拾八圓也
武藏屋	島中三郎	山下忠兵衛商店

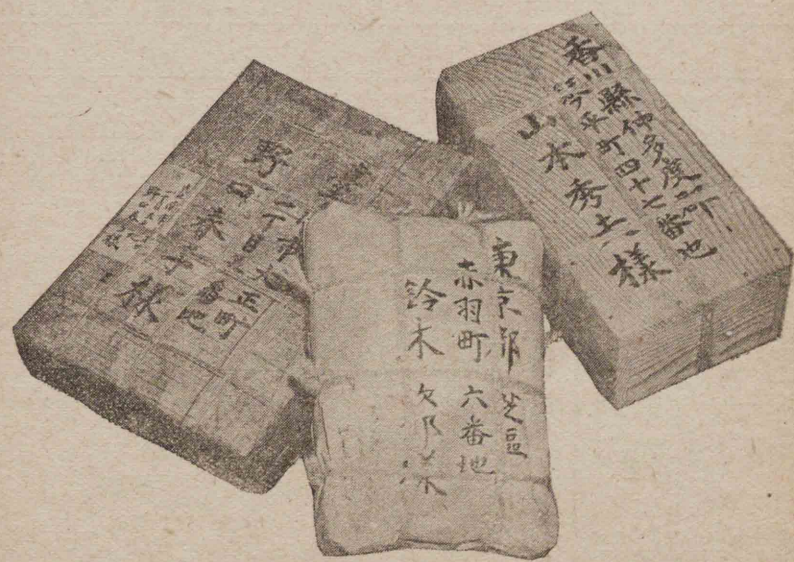
請 求 書

御注文番號 36	請求番號 157				
本田文房具店殿 昭和△年5月25日	田村豊吉商店 東京都日本橋區横山町一ノ二 電話 浪花 (67) 2125 振替口座 東京 3637				
下記之通り御請求申上候也					
納入月日	品 名	數 量	單 價	金 額	摘 要
5 7	毛 筆				
	規格3 櫻印	500本	10	5000	
	" 4 竹印	500本	20	10000	
	計			15000	
御支拂期限		昭和△年5月末日			

代金の支拂を求めるときには、請求書を用ひることがある。これには、金額内譯年月日宛名などを記入する。代金の支拂を受けた時は、受取書(領收書)を渡す。受取書には、金額摘要年月日宛名などを記入し、金額拾圓以上の場合には、収入印紙をはる。又、代金の支拂ごとに受取書を取る代りに、金銭判取帳を用ひ、これに代金を受取つたことを記入させることもある。

商人の間の賣買では、必ずしもす

小包郵便



ぐその場で、商品の受渡をやるとは限らない。そこで、賣買した商品をいつどこで受渡するか、その時期と場所とを定めることが必要である。

商品によつては、石炭・木材・鐵材などのやうに、そのまま、貨車や汽船などに積込んで運送されるものがある。これを散荷といふ。しかし、一般に貨車や汽船で

第115號			
昭和△年5月7日			
送 券			
先 届	所 繼	毛筆	品名荷姿
本田文房具店殿	驛 店	木箱詰	簡數
静岡市七間町九番地		壹箇	元價
主荷出	店 扱	運立元為	元價
東京日本橋區橫山町一ノ二二	東京汐留驛前	手運立元為	金壹百五拾圓也
田村豐吉商店	山 一 運 送 店	料貨替掛替	
電話浪花(67)三二二六	電話銀座(57)五七八六番		
			右積送候條貴着御查收可被下候也

運送する場合には、荷造が必要である。

荷造には、木箱・柶・俵・菰・麻袋・樽・罐・壺などが用ひられ、又詰物として藁・新聞紙・ボール紙などがあり、更に外部に藁繩・麻繩・鐵帶などでむすぶこともある。又、荷物の積卸しや、荷捌きが便利なやうに、いろいろな記號をつけておくのである。

荷造の出来上つた荷物を發送するには、鐵道便・自動車便・船便・小包便などの方法がある。鐵道便や、船便で荷物を發送する場合には、直接に鐵道や船會社にたのんでもよいが、運送會社にたのむと便利である。

荷物を發送する場合には、先づ送券を作る。これは荷印・品名・箇數・運賃支拂方法・荷受人及び荷送人の住所氏名などを記入したもので、荷物と共に運送業者の手を経て荷受人に渡され、荷物の案内

書の役目をする書類である。

荷物の發送を終つた時は、直ちに送狀を作つて、荷受人に宛てて郵送しなければならぬ。送狀は、荷印・品名・數量・金額・便名などを記入した計算書である。又、荷物を發送する時に保險をつけておくと、運送の途中で事故が起つた場合に、保險會社から保險金の支拂を受けることができるから、商取引には保險をつけることが慣例となつてゐる。

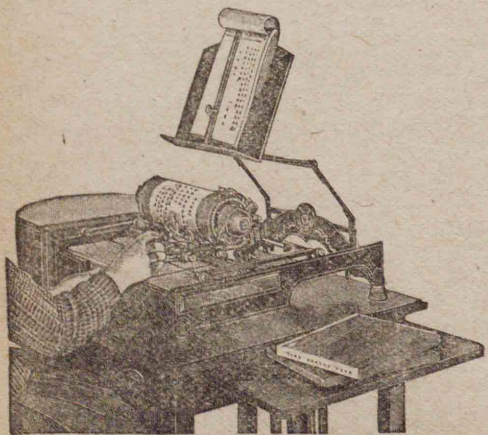
第七 商業と通信

一 仕入と注文

賣るための商品を買入れることが仕入である。昔は問屋や卸商から仕入れたものであるが、配給統制の行なはれてゐる現在では、仕入先が指定されてゐることが多い。又、配給が統制されてゐるので、仕入れる商品の分量や種類も小賣店の自由にはならない。商品を注文する場合には注文品の品質・数量・値段などのほかに、受渡の時期と場所、代金の支拂方法などに就いても、はつきり取りきめておかなければならない。買手と賣手とが直接に口頭で交渉する場合などには買手が現品を見たり、見本を検査して品質を

決定することが多い。現品や見本が見られない場合には、商品の銘柄や商標を指定してきめることもある。精巧な機械や特殊な構造をもつた器具などの製造を頼むやうな時は、注文品の形や寸法その他を書いた仕様書を用ひる。商品の賣買に當つて、買手が現品を見て買ふ時は、その品物の良否を或る程度まで判断することができなければならない。注文取引になると信用が大切である。見本や目録によつて注文を受けた時には、賣手がその見本や目録通りのものを正直に作り、又、數量なども正しく引渡すことが當然のことではあるが、往々不正直な商人は手を抜いたり、數量の不足するものを引

邦文タイプライター



注文書

注文番號 36

昭和△年5月1日

田村豊吉商店 殿

下記之通り御注文申上候也

受渡時期 昭和△年5月10日

受渡場所 當 店

代金支拂方法 月末現金拂

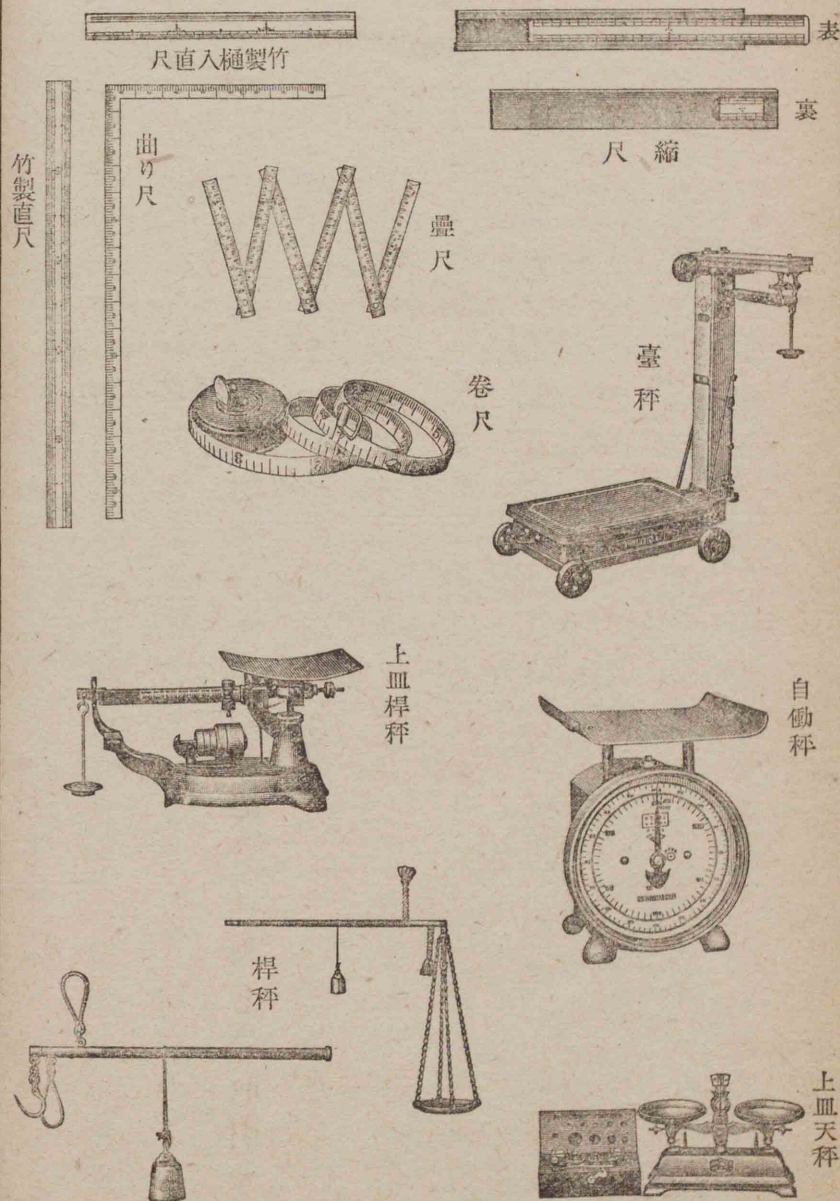
本田文房具店

静岡市七間町九番地
電話 524番

品名	數量	單價	備考
毛筆			荷造費運賃諸掛
規格3 櫻印	500本	10	當店負擔
4 竹印	500本	20	

渡したりすることがある。このやうな商人は必ず信用を失つてしまふのが當然のことであつて、殊に外國との取引の場合にはそれが一層甚だしいのである。一人でも不正直な商人があると、あの國の商人は信用ができなまいといふことになり、國全體の威信を失墜するばかりでなく、交易の上にも非常な損失を招くのである。これから益、國際的取引が盛んとな

種各器衡量度



るに随ひ、一人でも信用を落すやうな不正直な者が出ないやうに、日常の商賣からして氣をつけるやうにしなければならぬ。

商品の數量を表すには、箇數によるものと度量衡によるものがある。箇數によるものは、荷造の一定してゐる商品が多い。袋・樽・俵・函・壺・罐などは荷造の箇數で計算する。度量衡によるものには、鑛産物・農産物のやうに重さによるもの、液體類のやうに容積によるもの、織物のやうに長さや面積によるものなどがある。重さによつて計算する場合には、容器や包装材料の重さ(風袋)をそのまま、計算に入れる時と、これを差引いて中味の重さだけをはかる時とがある。前の場合を總量又は皆掛といひ、後の場合を純量又は正味といふ。

仕入れる品物の數量がきまると、仕入先へ注文を出すことにな

る。注文には普通注文書を用ひるが、場合によつては口頭電話電報などによつて注文することもある。しかし、口頭や電話電報はとかく間違が起りやすいから、更に書狀によつて確かしておくことが必要である。

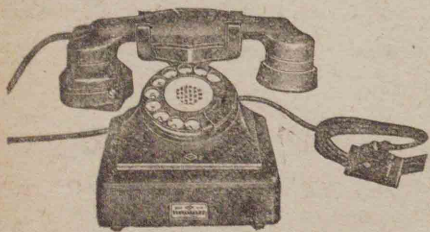
二 電話

普通の話なら、お互に言葉の足りないところは表情でうめ合はすことができるが、電話は聲だけであるから、言葉で十分こちらの思ふことをいひ表さなければならぬ。

先方から電話がかゝつて來た時、受話器を

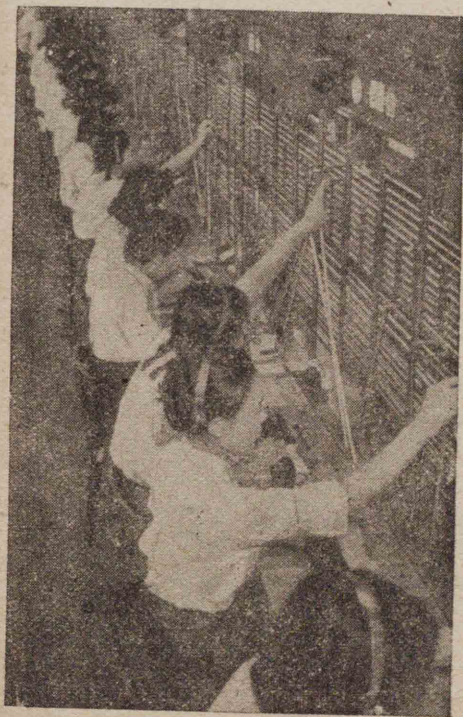


自動式壁掛電話機



自動式卓上電話機

はづしたら、「もしく」といふ代りに、先づこちらは「何々商店でござ
います」といふ方がむだをはぶくことになる。でないと、先方から
「何々商店ですか」と必ず聞かれる。さうすれば「さうです、何々商店
でございます」と返事をしなければならぬ。この場合單に「さう
です」だけでは間違が起りや
すい。電話では聞き間違が
あるから「さうです」とか「い
え」だけでなく、もつとはつき
り答へる必要がある。一通
りの會話がすんだ時、用事が
すんだことが確かでない間
は、受話器を掛けてはいけな



電話交換局

い。電話の相手が、お客や目上の人であつたら、なほ更さうである。
その人が受話器を掛けたのち、始めてこちらにも受話器を掛けるべ
きである。もつとも電話では用件だけを簡単にすませ、長話はし
ないやうに心掛くべきである。

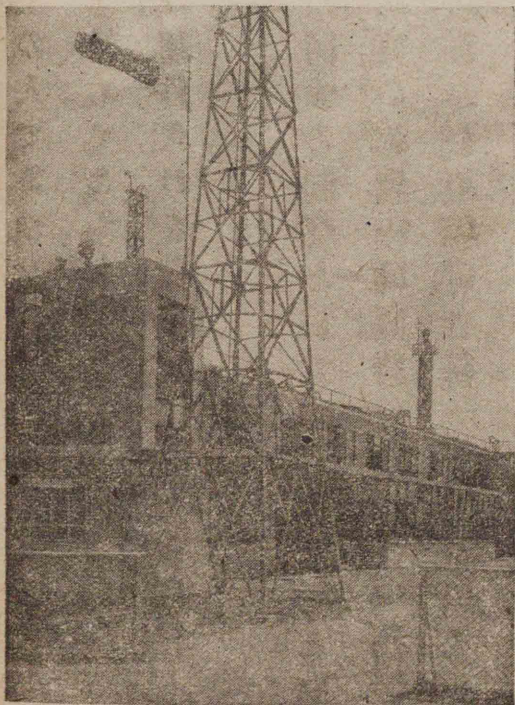
なほ、時間を定めて確實に通話する制度としては、定時通話と豫
約通話がある。定時通話は、必要の都度一時間前に申込んで通話
をするのであり、豫約通話は、あらかじめ認可を得て、一箇月以上を
通じ毎日一定の時刻に通話のできる制度である。又、遠方や外地
外國への電話をかける場合には、電話局の記録申込掛に目的地の
局名と電話番号を申込み、こちらの電話番号をいへばよい。

三 電 報

戦争が始つてから、電報が目立つて多くなつて來た。殊に電話

局では減員のまゝ、今までの何倍といふ仕事を取扱つてゐる。電信技手は、毎日指先を痛めながら、頼信紙をさばくのにけんめいの努力をしてゐるのである。

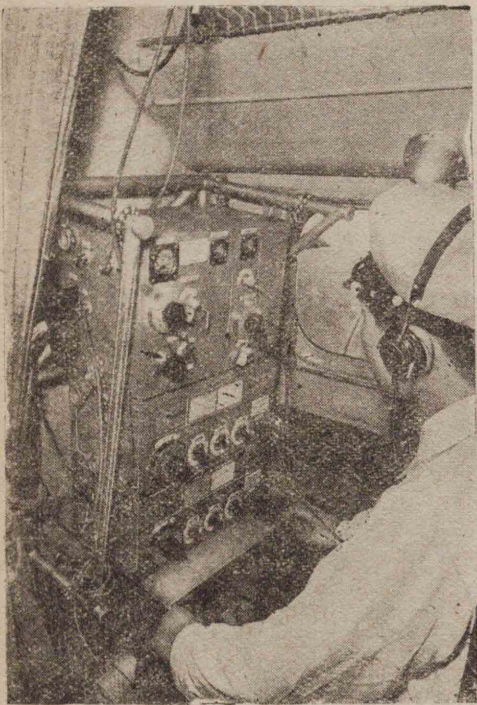
外国との通信や、航空機・船舶との連絡には、無電やラジオが使はれるし、国内では普通に電報が急な用事には用ひられてゐる。電報も戦力の一つであるから、少しのむだもあつてはならない。儀禮的のものや挨拶のやうなものは、不急であるから手紙や葉書にするのである。でない、と



電信局(塔)

一分一秒を争ふ大事なものが遅れる。かな文字になれない人が少い字數で意味の通ずるやうに工夫するのはむづかしいことであらうが、よく注意してむだな字をはぶくことも御奉公の一つである。

航空機上の通信



頼信紙には、できるだけのつきりした字で書くやうにする。書き方がぞんざいなために、思はぬ間違を起すことがある。例へば、「ヒ」をぞんざいに書いたために「サクヒ五〇へウオクツタ」昨日五十五〇へウオクツタと打つたはずの電

電報 報 頼 信 紙

送通信過番號

者校照	信 送	手 切 便 郵				類 種	局 信 著
	午					數 字	
者信送	時					局 信 發	注・一濁點又は半濁點ある文字の下は一字あけること 一受信人に知らすべき發信人の居所氏名は本文の終に書くこと
	分						
發 (控) 信 人 居 所 氏 名	文	本	定 指	宛 名			付 受
大 阪 市 東 區 今 橋 三 坂 田 良 吉				ボ	トウキヤウトニホバシク		時 分
				○	ヨフヤマチャウト		
				○	タムラトヨキチ		
				レ			
				サ			
				カ			
				タ			
				シ			
				レ			
				五			
				局 内 心 得			電 第 一 號

刷印局理經省信遞 省 信 遞 號一第電

報が「サク七五〇」へ「ウオクツタ」昨七五〇「依送つた」となつて届き、先方へ思はぬ迷惑をかけたことがある。

又、電報の打ち方で、その人の「はたらき」がわかるといはれてゐるが、電文は簡単に、しかも受取人がその意味を間違へないやうに注意して書くことが大切である。例へば「シンダイケンタノム」(寢臺券頼む)が、「死んだ行けん頼む」と間違つたとしたら、とんだことになるわけである。

次に敬語をなるべく簡単にすることである。「シラセコフ」で十分なのに、「オシラセクダサイ」ではむだが多い。中には「キヨウシユクナガラ」に始まり、手紙をそのまま、かなに書き改めたに過ぎないものがある。又、「五チャウメーバンチ」は、「五ノ一」でわかるし、「サトウキチザウシヤウテン」の「シヤウテン」は不要であつて、無くてもわか

ることである。又、間違つた損得の考へから、十五字までは料金が同じだから、たつぷり書かなければ損だといつて、むりに書き足す人がある。小さいことながら、このやうな考へは絶対に止めなければならぬ。

又、配達員がいつも困つてゐるのは、家の表札の字の消えかゝつたのが多く、名前や番地がはつきりしないこと、同居人の名前が表に出てゐないことなどである。

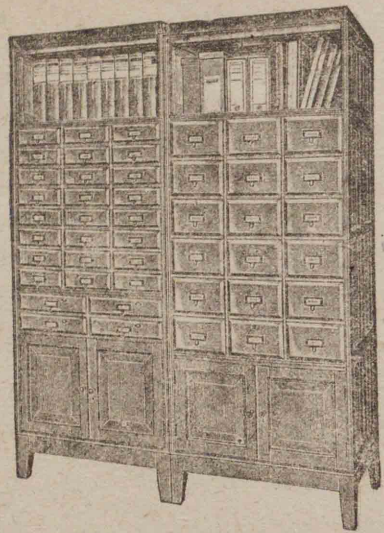
四 手紙

郵便による注文は、普通の手紙よりも、一定の形式を備へた注文書を用ひる方が便利であり、正確である。そこで、商人は一定の書式を印刷しておいて、これにそれ〴〵必要なことを書き込むこと

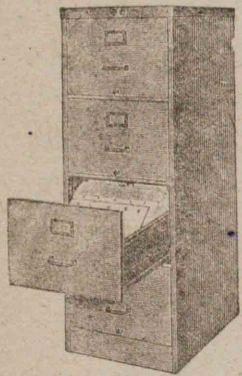
書類整理用品の圖

書類整理棚の一部

書類整理棚

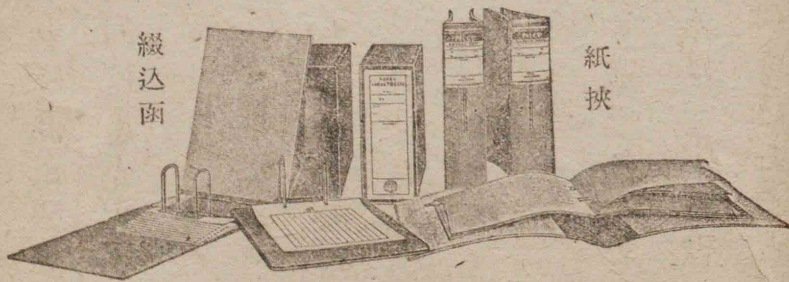


直立式書類整理箱



紙挾

綴込函



にしてゐる。注文を受けた者が承諾する場合にも、注文請書を用ひることが多い。注文書に限らず、商業上に用ひられる手紙は、あとで證據になるものであるから、事柄を順序正しく書くこと、わかりにくい字句を使はないこと、金額・數量・年月日・宛名・番地などを特にはつきり書くことなどに注意すべきである。

手紙は、こちらから出すものは、なるべく炭素紙で複寫を取つて控を残し、先方から來たものも、紙ばさみや書類整理箱などに、年月日順・地方別、或は五十音順などに分けて整理しておいて、いつでもすぐ取り出せるやうに保存して置かなければならない。

更に、一通の手紙、一枚の葉書にも、命をかけて働いてゐる通信員のあることを思つて、よけいな迷惑をかけないやうに心がけようではないか。

第八 交通と輸送

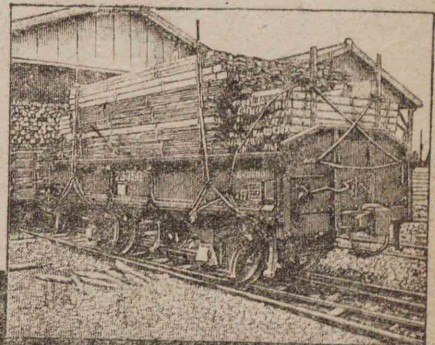
一 鐵道と自動車

東京の人が、東北地方の米や北海道の冷凍魚や臺灣の砂糖をたべたり、樺太の木材で作つたスフを着、木曾の山奥の材木で建てた家に住んでゐたりする。かういふやうに、生活を維持するためには、方々からたくさんの生活必需品が、絶えず供給されなければならぬ。

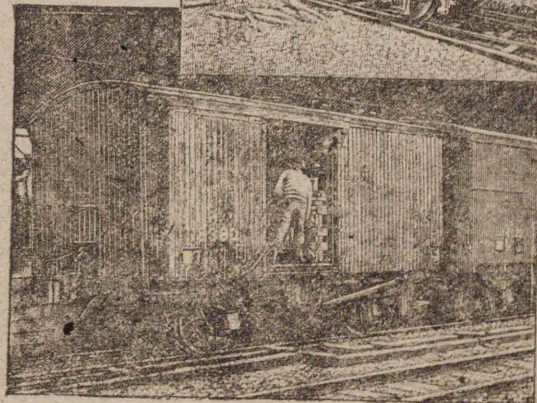
又、どこの工場でも、その生産活動が行なはれるためには、朝夕何千萬といふ勤勞者が運ばれ、遠い産地から大量の原料品が絶え間なく輸送されることが必要である。

交通運輸は陸上ばかりでなく、水上でも、空中でも行なはれる。陸上交通機關のうちで、最も速力が早く、安全、正確に大量の運送をするのは鐵道である。

現在必要なことは、勞務者や主要な生産に使はれる物資を、圓滑に輸送することである。随つて、軍備の充實も生産力の増強も、一つには輸送力がしつかりしてゐるかどうかによつてきまるのである。鐵道は、この重大な任務を帯びてゐるから、一面にむだな輸送を

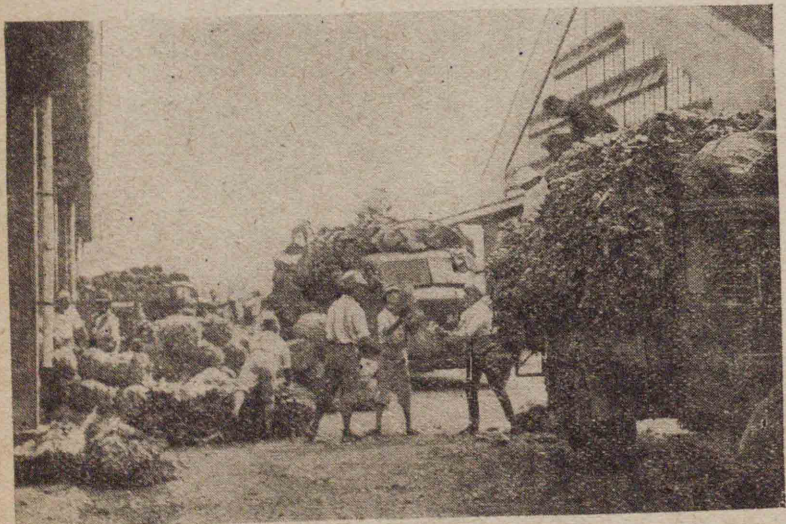


無蓋貨車



有蓋貨車

させないことが大切である。私どもとしては、不要不急の旅行を取りやめることが第一である。旅行したいと思ふ時はいつでも、これがはたして國家のため戦争のために必要かどうかを反省してみよう。又、虚禮に類する贈答品などの荷物を送つたりすることは、重要物資輸送を妨害することになるから、絶対にやめよう。私どもは、戦争に勝ち抜くために、車輛の使用をみんなお國に捧げる心構へが大切である。

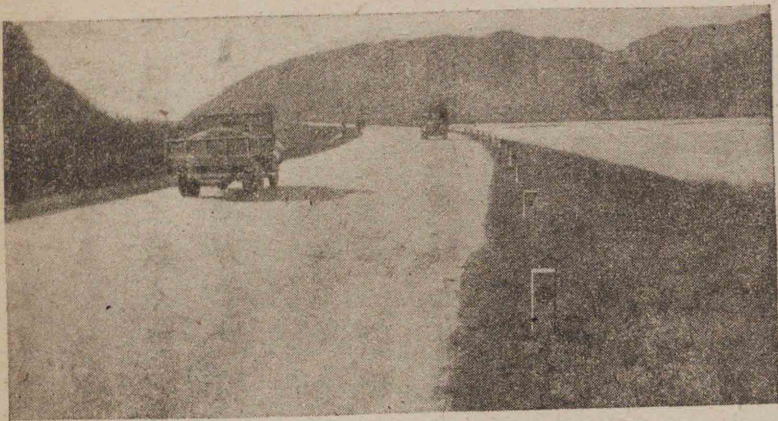


青物市場

交通線・兵站線は、戦争を支配するといはれる。五十萬の大軍を率ゐてロシヤ遠征に向かつたナポレオンが、雄圖空しくモスクワから悲慘な退却をしなければならなかつたのは、どういふわけであつたらうか。又、日露戦争で、ロシヤ軍はシベリヤ鐵道の弱點を知つて、どういふ非常手段をとつたであらうか。

貨物の陸上運送は、鐵道だけで十分といふわけには行かない。鐵道の通路は軌道できまつてゐるから、貨物を荷送人の家の戸口から、荷受人の戸口まで運ぶことはできない。そこで、鐵道運送には、發着兩驛と荷主・荷受人との間で、荷物を集めたり配達したりする小運送が必要である。鐵道や汽船のやうな大運送機關のためには、小運送機關として、陸上では貨物自動車、自動三輪車、牛馬車、荷車などがあり、水上では舢舨せんぼんが用ひられる。

自動車運送



自動車で運送する場合には、鐵道の場合よりも荷造が簡單で、積卸に手數がかゝらない。又、荷送人の戸口から荷受人の戸口まで直接に運ぶことができるから、運送の時間がそれだけ短くなる。又、場合によっては、荷送人のために代金の取立その他簡單な用事も引受けられるから、便利である。鐵道は、自動車よりも遠距離の運送に適し、運賃が安く、又、速力の早いこと、安全なことも自動車に劣らないが、發着兩地における小運送や積換に、かなりの費用と時間がかゝり、又、貨物を破損する場合も多いから、

短距離の所では、却つて自動車運送の方が安くて、早くて安全といふことになる。又、運送手續の簡便なことも自動車の長所である。なほ、鐵道を敷くほど貨物がなかつたり、或は鐵道工事のむづかしいやうな地方では、特に自動車運送が大事な役目を果してゐる。

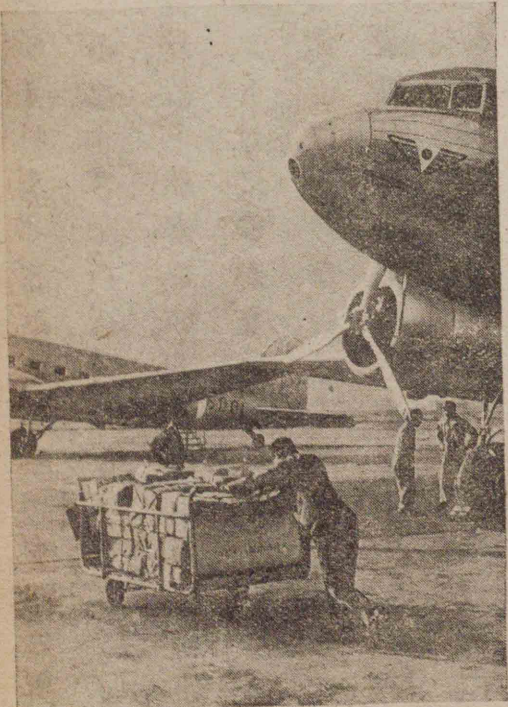
二 船舶と航空輸送

商船は、鐵道と共に最も重要な輸送機關である。船は、鐵道に比べると、迅速、安全、正確といふ三つの點で劣つてゐるが、運賃が安く大量の運送ができるといふことで、鐵道ばかりでなく、他のどんな運送機關よりもすぐれてゐる。商船の運賃が安いのは、どういふ理由であらうか。それには、通路上の抵抗が少いこと、通路の建設費や維持費を要しないこと、積載力が大きいことなどが考へられ

る。

航空機の長所は快速力をもつこと、海・山・沙漠などのやうな地表のものに妨害されないうで、最短距離を通つて目的地に飛べることである。しかし、運送能力が少く、多くの費用がかゝり、又、氣候に左右される弱點がある。そこで急を要する商品見本、貴金屬、有價證券、寫眞や藥品、その他容積が小さくて貴重なものや、多忙な旅客や、急送郵便物の運送に適してゐる。

物資は、それを消費地に運ぶことができれば、せつ

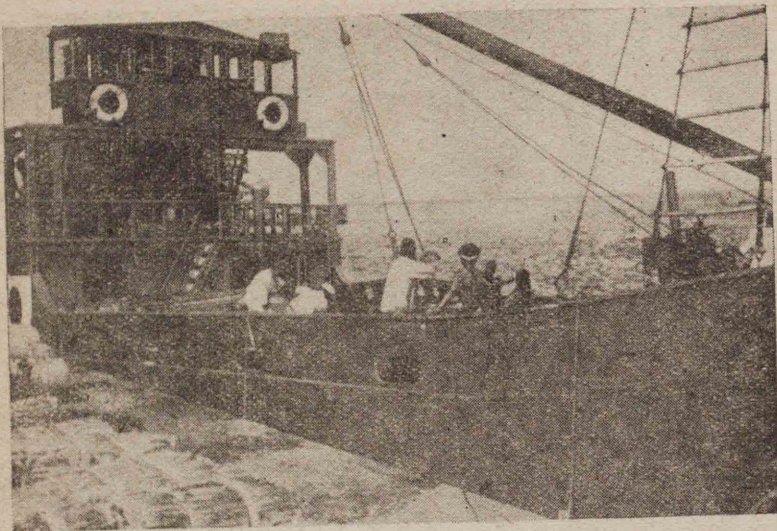


航空郵便

旅客機内部



てその資源が有効に働くのである。大東亞のやうに地域がひろがれば、それだけ広い地域から原料を持つて來なければならぬ。随つて輸送距離が長くなり、又、それだけ船がたくさんいるわけ



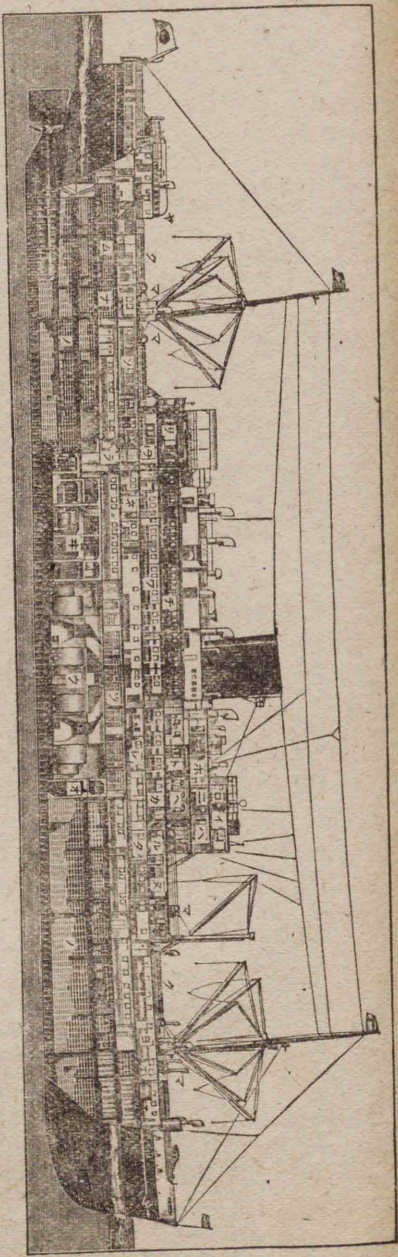
木造船

ある。しかも戦時には、広い地域に作戦する軍隊へ、武器・弾薬・食糧などを補給するためにも船がいる。一人の兵士について、十トンの船腹量が必要だといはれてゐる。かういふわけであるから、船が戦力を決定するともいへるのである。

この船舶を作るには、鐵がいる。しかし、鋼材一トンを作るには、十トンの鐵礦を船で輸送しなければならぬ。即ち鐵には船がいり、船には鐵があるのである。それで、鐵礦

石などのやうにかさばるものの輸送を必要としない屑鐵の方が便利であり、随つてその回収が必要になつて来る。屑鐵は、工場や家庭にある鐵資源である。しかし、屑鐵には限度があるから、大量の製鐵には屑鐵ばかりに頼ることができず、やはり鑛石から鐵を作る必要のあることはいふまでもない。

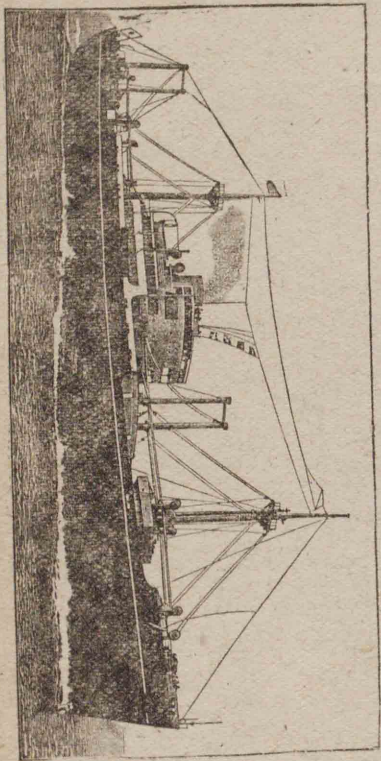
木造船は、鋼材が鋼鐵船の三分の一以下ですむから、鐵の節約からいつても非常に役に立つ。これは内地の沿岸輸送や、日・滿・支などの近海に活動するのに適するであつて、鋼船は重要物資を遠方から運ぶに適する。最近、小型木造船が大量生産されてゐるが、これは鐵もあまりいらぬし、造るにも簡單で、失つても損害が少いから、國防上有利である。私どもの祖先は、帆ばかりの木造船で支那海を縦横に突破してゐた。支那のジャンクも、それを平氣



客船内部の圖

- イ 操舵室
- ロ 航海長室
- ハ 無線電信室
- ニ 一等客室
- ホ 一等客室
- ヘ 二等客室
- ト 三等客室
- チ 一等客室
- リ 二等客室
- ヌ 三等客室
- ル 汽機室
- エ 小倉庫
- オ 郵便室
- カ 石炭庫
- キ 船機室
- ク 荷物庫
- ケ 航海儀
- コ 救命艇
- ク 貨物庫
- コ 機器

貨物船の圖



でやつてゐる。

實に全産業を左右するものは、輸送力であるともいへる。今日、大東亞共榮圏は、決して物に不足してゐるのではない。たゞ輸送力が十分でないために、物がなかく、資源として利用されないのである。どうしたら、船腹を節約することができたらうか。これが刻下の問題である。

戦争遂行には、第一線の戦場ばかりでなく、その背後にのびる補給路が極めて大切であるから、その破壊をめざしても、はげしい戦が行なはれてゐる。この補給戦の勝敗が、すぐ第一線の戦局にひびくことはいふまでもない。海上補給路を確保するためには、制空權と制海權の確保が絶対に必要である。船腹の増加に力を入れてゐるのは、生産戦に對する輸送増強のためもあるが、補給戦を

有利にするためでもある。陸上輸送力を増強するのも、これによつて海上輸送力、即ち船腹の不足を補ふために外ならない。又、國內に於ける食糧の自給自足をめざして、食糧増産に努力してゐるのも、これによつて海路の食糧輸送をやめて、節約し得た船腹で一トンでも多く海外から重要物資の輸送をしたり、又、兵器彈藥を前線に補給しようとするのである。

米五石が一トンと假定すると、五十萬石の米を國內で増産すれば、十萬トンといふ、ばくだいな船腹が節約され、それだけ戦線に兵器軍需資材の補給をすることができるのである。かう考へるならば、一粒の米、一つの「いも」も單なる戦時下食糧の確保ばかりでなく、補給力の増強、ひいては皇軍將兵の戦力の強化にも役立つことがわかる。更に約二千萬人の男子が、二人に一年一着づつ上衣の

新調を見合はせると、スフ製品の原料になる石炭が約五萬八千五百トン節約される。これは、五千トン級の石炭輸送船九隻分に相當する。又、その原料のバルブ用木材約十九萬石とすると、百トン級の木造船を百九十隻も造ることができ、この船で一回に三萬八千トンの物資を輸送し得るのである。

このやうに戦時下に於いては、一つの物の節約は單にそのことだけでなく、種々の影響があり、それが積り積つて戦力の増強になるのであるから、私どもは、力めて物を大切にするやうに注意しなければならぬ。

第九 物資愛護と總動員

一 物資の愛護

戦争中は總べての物が戦争を勝ち抜くために使はれなければならぬ。殆どあらゆる物資は軍需品になつてゐるから、私どもが物資を愛護して、簡素な生活をすれば、それだけ多くの物資が戦線に送られることになる。武器の原料に直接必要な鐵や銅を獻納することはもちろん、木綿や羊毛の代りにスフを使ひ、その他無いもの、足りないものがあれば、やむを得ない場合代用品を工夫して使ふことを心がけなければならぬ。

しかし、代用品といつても、例へばスフを作る木材は建築用材に

もなれば製紙の材料にもなるのであるから、むだに使つてはならない。先づ、衣料に使はれる纖維はできるだけ節約して、直接軍需や重要産業方面にふり向けるばかりでなく、それを作るに要する労力や資材を、戦力の増強に役立つやうにすることである。今、かりに各自が足袋一足を節約し、これを決戦下の増産に挺身する何千萬の産業戦士の作業衣にすると、一人に一着づつ配給することができる。又、その生産をやめると、パルプ一萬トン、石炭十五萬トン、工業鹽二萬トンなどの資源が節約されるばかりでなく、大きな電力や、労力も、戦力増強に向けられることになる。

又、全國民の使用する糸を、染色せずに白いまま、で使ふとすれば、二百トンの染料と、石炭二萬トンといふ、ばくだいな資源が節約されることになり、しかも染料の製造原料は、火薬の生産に役立つのである。

今こそ、國民の一人々々が、一尺の布地、一握りの綿を節約して、第一線の將兵の軍服に、作業衣に捧げるべき時である。そのためには新調をやめて、あり合はせのもので間に合はせることを工夫し、決戦下にふさはしい簡素な衣服にする必要がある。衣料切符制度は、衣料を公平に分配するだけでなく、生活を切りつめて、餘つた資材や労力を、戦争に直接必要な方面に廻すためのものである。随つて、割り當てられたものもなるべく節約して、どのくらい使はずにすむかといふことに工夫をこらすべきであり、それがそのまゝ、戦力増強への努力になるのである。五十點とか四十點とかを、どうすれば上手に残りなく使へるかなど考へるだけでは、決して十分ではないのである。

かりに、衣料切符の一割に當るスフ・人絹を作るに必要な人員や

動力を、兵器製造に向けたらどうなるか。航空機に絶対必要な、何
萬何千トンといふアルミニウムが作られる。又、これを砲彈の製
造に廻せば、野砲彈何百萬發、小銃彈何億何千萬發を作ることがで
きるのである。私どもは、勝つためにあらゆる生活の不自由を忍
び、生活を切りつめて、できるだけの勞力と、動力と、資材を、戦争のた
めに捧げよう。

兵器は主として金屬製であり、それに必要な特殊鋼や輕合金を
作るには、多くの資源がいる。かういふものを取扱ふ工業を重工
業といつて、織物や日用品を作る輕工業と區別してある。戦争に
なつてから、輕工業から重工業への發展が見られるのは當然であ
る。しかも、ばくだいな増産のためには、資源がたくさん必要であ
るが、ないもの、足りないものは、工夫して作らなければならぬ。

かくて新しい合金、貧鑛處理、石炭液化、人造ゴムなどの工業が發達
して來たのである。

金屬の精鍊にも、兵器を作つたり動かしたりするためにも、石炭
が使はれる。鋼鐵一トンを作るには、その三倍の石炭が必要であ
り、人造石油一トンには五トン、製紙一トンには一トン必要なので
ある。石炭からは石炭ガス、コークス、タールが取れ、タールからは
藥品や染料などが取れる。

日常生活に直接關係のある電力やガスも、軍需生産の方面に大
切であることがわかつたならば、むだ使ひはできないはずである。
かりに、皆が一箇月に一立方メートルのガスを節約すれば、貨車五
百輛分の石炭が浮き、一貨車十五トンとして七千五百トン、一年に
は九萬トンの節約となり、これはつまり石炭を運ぶ五千トン級の

船舶約十三隻を他のことに利用させることになるわけである。又、配給を受けてゐる砂糖一年分を、マニラから横濱まで運ぶには、五千トン級の貨物船四―五隻が必要であるが、もしこの砂糖の消費を少しでも節約すれば、それだけの船腹を他の戦力増強に必要な物資の輸送にふり向けることができる。

国防上、軍事上必要なものは、いよゝゝ増加するのであるから、私どもの日常生活を切り下げるほかはない。皆が節約すれば、それだけ資源を国防に廻すことができるのである。

戦争に必要な生産擴充の費用は、税金と國債によつてと、のへるが、これは主として國民の貯蓄によつてなされるのである。まことに節約は大きな御奉公である。

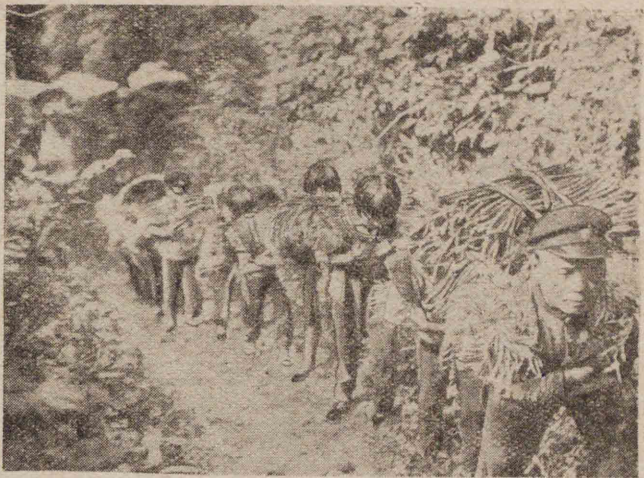
二 總動員

國內にあるもの總べてが、戦力増強のために總動員されなければならぬ。重要な産業を躍進させるには、非常に多くの人がいる。そこで、將兵が召集を受けると同時に、國家に必要な産業に向けられる名譽の應徴士がたくさん出てゐる。このやうに、人の力と資源を精一ばいに働かせて、最も大きな力を

農耕作業



山藪取り作業



出すやうにする法律が、國家總動員法である。しかし、さういふ法律があるからといふやうな氣持ではなく、國家のために、戦争に勝つために、心から進んでしたがふべきである。實に、どうすれば戦時下に於いて一ばんお役に立つことができるかといふ道を示されたのが、この法律である。戦争を續けるには、物資がいくらあつても足りない。そこで、現在のところ必ずしもいらぬとか、急がなくてもよいと思はれる方面へは、物資が流れないやうにし、資金も國家が必要とする方面だけにつきこまれるやうに統制するのである。

日本は、武力には強いが經濟力は弱いから、今に參つてしまふにちがひないと敵は待つてゐる。ところでわが國民は税金は喜んで出すし、子供までがよく働いて貯金するから、國債はどん／＼消化されて行く。今日の戦争は、經濟戦であり生活戦であるといはれる。どれだけ生活を切り下げることができるか、むだをはぶく工夫が進むか。さうして、昔からわが國に傳へられてゐる簡素でひきしまつた生活を、どこまでも續けて行けるかどうか、戦争に大きな關係をもつ。私も、どんなことでも、皇軍のはげしい奮戦を思へば、がまんすることができるとは思ふ。

かうして最後まで戦ひ抜き、勝ち抜くためには、經濟戦や生活戦を、どこまでもやり通す心構へが何より大切である。この心構へ

を亂さうとするのが思想戦であつて、物資の缺乏から經濟戦・生活戦が激しくなるに随つて、敵國としては、これが活潑に働きかけるのに好都合な情勢となるのであるから、國民はこの點に十分注意しなければならぬ。思想謀略は、表面的には容易に判別することのできないやうな、巧妙な手段で侵入して來るから、眞に恐るべきものがある。私どもの胸は、お國を思ふ心で一ぱいである。どうすればお國のためになるか。お國のためになることなら何でもやらう。いくらでも働かう。しかし、それだけではまだ足りない。知らず識らずのうちに敵の謀略にかゝつてはゐないであらうか。國內の一致協力を亂すやうなことをしてゐはすまいかと常に反省を怠つてはならないのである。

高等科商業 上

定價金貳拾參錢

昭和十九年四月五日印刷
 昭和十九年四月九日發行
 昭和十九年四月十五日翻刻發行

著作權所有

著作權者

文部省

翻刻發行所

大日本圖書株式會社

代表者 杉山 常次郎
 東京都牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 佐久間 長吉郎
 東京都牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 大日本印刷株式會社
 東京都牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 大日本圖書株式會社

昭和十九年四月十日
 文部省検査日



